

## 焼岳の火山活動解説資料（平成 29 年 3 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - 、図 4）  
北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 80m 以下で経過しています。また、同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 50m 以下で経過しています。その他の地域で噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）  
火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 2 - ~ 、図 4）  
GNSS<sup>1)</sup> 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

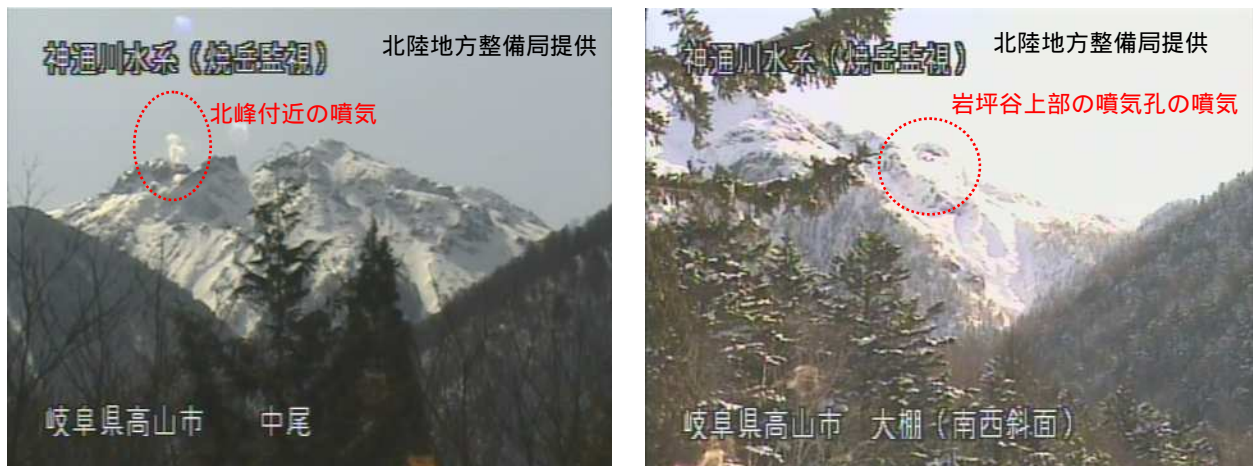


図 1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況  
(左図：3 月 18 日 焼岳北監視カメラ、右図：3 月 18 日 焼岳南西斜面監視カメラ)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 4 月分）は平成 29 年 5 月 11 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

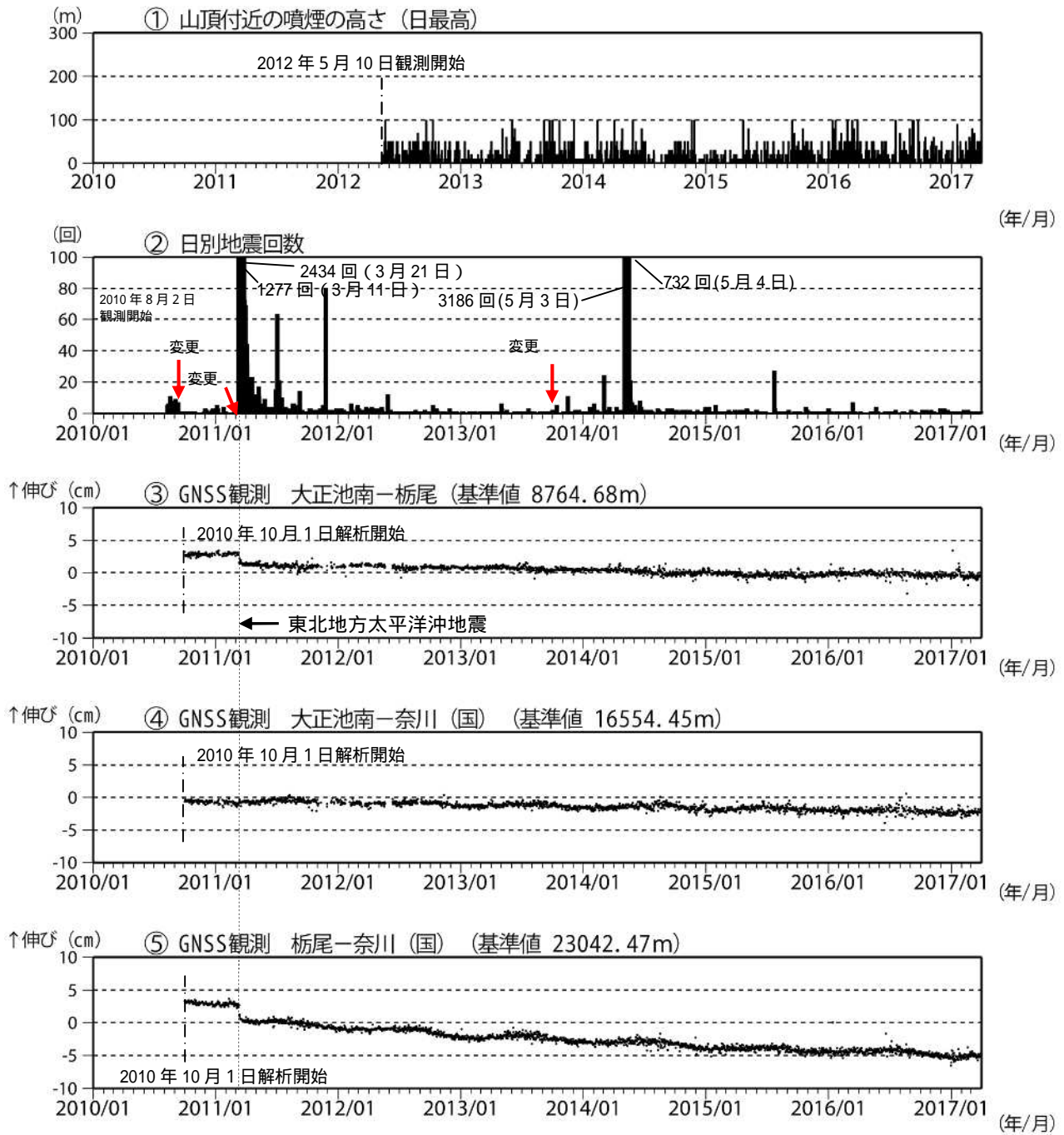


図 2 焼岳 火山活動経過図（2010年 8 月 2 日～2017年 3 月 31 日）

焼岳周辺の日別地震回数

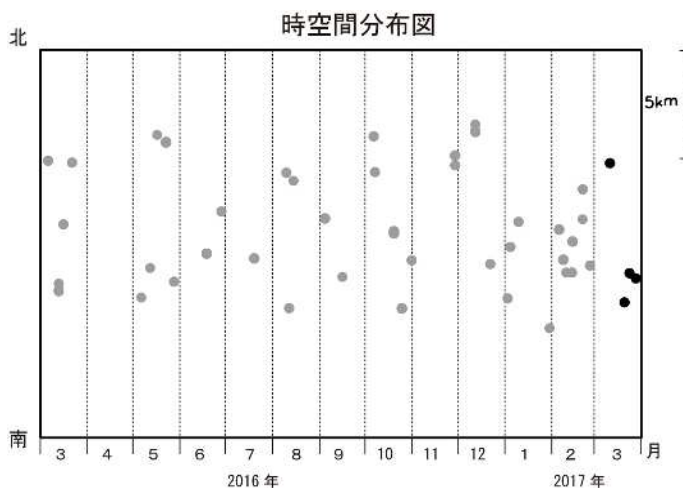
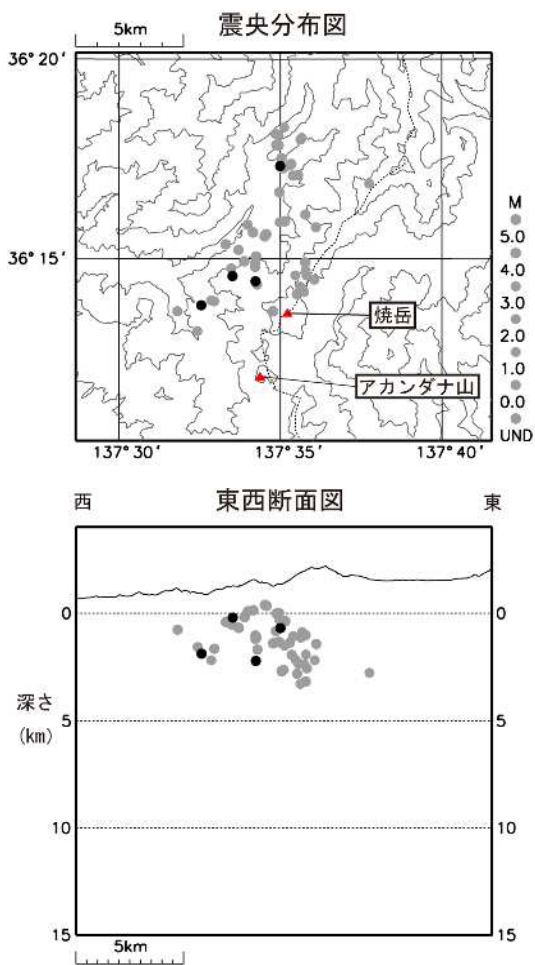
2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。2014 年 5 月 3 日から 4 日にかけてと 2015 年 7 月 24 日に一時的に活発化した後は低下しています。

～ GNSS 連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。

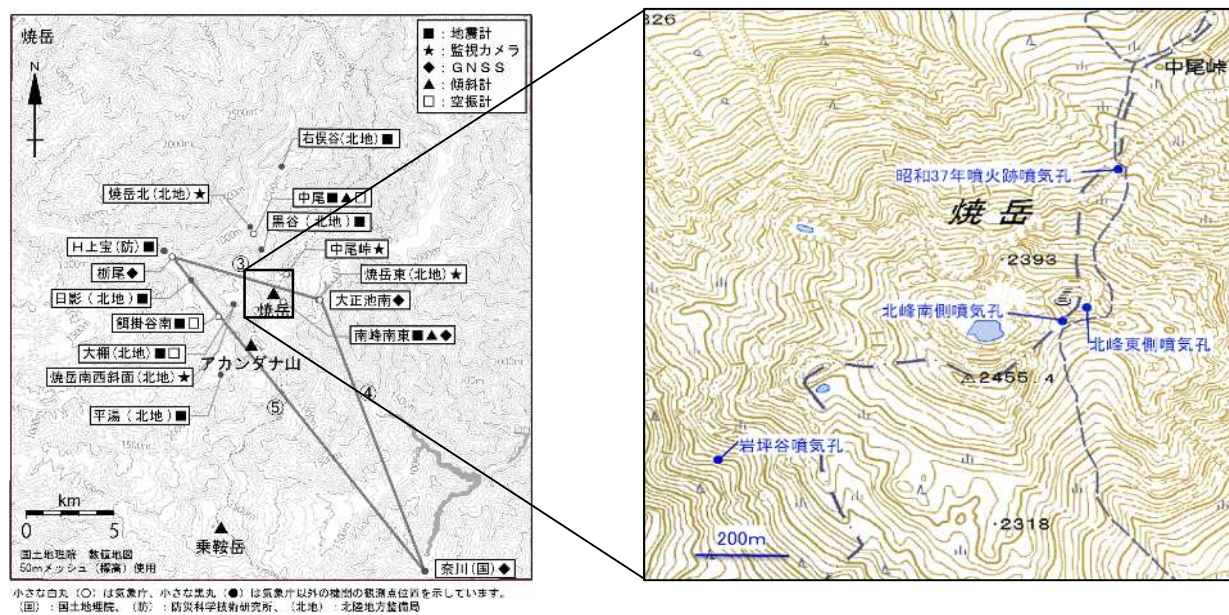
～ は図 4 の GNSS 基線 ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

【地震の計数基準の変遷】	開始	2010 年 8 月 2 日～2010 年 9 月 21 日	中尾振幅 0.5 μm/s 以上、S - P 2 秒以内
	変更	2010 年 9 月 22 日～2011 年 3 月 10 日	中尾振幅 0.5 μm/s 以上、S - P 1 秒以内
	変更	2011 年 3 月 11 日～2013 年 9 月 30 日	中尾振幅 3.0 μm/s 以上、S - P 1 秒以内
	変更	2013 年 10 月 1 日～	中尾振幅 2.0 μm/s 以上、S - P 1 秒以内



：2016年3月1日～2017年2月28日  
 ：2017年3月1日～3月31日

図3 焼岳 震源分布図（2016年3月1日～2017年3月31日）  
 ・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土院、(防)：防衛科学技術研究所、(北地)：北陸地方整備局

図4 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置  
 ・GNSS 基線 ~ は図2の ~ に対応しています。